

# カーブドッチ 物語の舞台に

西蒲区

新潟市西蒲区角田浜で、ワイン製造所や飲食、宿泊などの複合型施設を運営する「カーブドッチ」は、作家が角田浜の施設に滞在し、同所を舞台にした物語を書くプロジェクトを始めた。第1弾として、本紙連載「風神雷神」(2016~18年)などで知られる原田マハさん(2016~18年)などの短編小説「旅をあきらめるにはまだ早い友への手紙」を出版した。同社は、より多くの人に施設の魅力が広まると期待している。

## 出版第1弾は原田マハさん短編

## 施設の魅力広める狙い



カーブドッチは昨年3月、1億円を投じ、敷地内の温泉施設「ヴィネスパ」をリニューアル。よりやすらげる時間を過ごしてほしいと考え、館内の至るところに本棚を置き、約4千冊の本を並べた。ゆっくりと本を楽しめるよう、ソファやカフェも備えた。

小説を出版するプロジェクトは「本に関係し、面白いことができないか」と同社の掛川千恵子副社長(73)が企画。自身がファンだという原田さんに依頼したところ、快諾してくれたという。

原田さんは昨年6月と11月、角田浜の施設にそれぞれ2日間滞在。体験を基に、60歳の誕生日を迎えた女性が同所でワインや食事を味わい、心温まる誕生日を過ごす「旅を一」を書き上げた。執筆料のほか、宿泊、食事といった費用は同社が負担した。

カーブドッチはプロジェクトをきっかけに、遠方に住む原田さんのフ



原田マハさんが実際に宿泊した部屋。作品には部屋の様子も書かれている。新潟市西蒲区角田浜

アンなど、これまで訪れたことがない人たちを呼び込みたい考えた。実際に原田さんのファンから問い合わせや宿泊予約があったという。

「思い出と一緒に持ち帰ってほしい」(掛川さん)と一般の書店には置かず、角田浜の施設内の各店舗で

販売中だ。一方で遠方に住む人のために、同社ウェブサイト上での通販販売も行っている。

掛川さんは「このプロジェクトを5年くらい続けたい」と話す。来年には別の作家による、第2弾の作品を出版する予定だ。

## 新潟駅、角田山…身近な場所も

原田マハさんの「旅をあきらめるにはまだ早い友への手紙」には、新潟駅、国道402号、角田山など新潟市の身近な場所が登場する。「ぶどう畑が夕陽に照らされる風景」「ワインは、涼風が吹き渡るような印象」と、カーブドッチの施設やワインの魅力も盛り込まれている。

縦11センチ、横14センチと文庫本ほどの大きさが37センチと短く、気軽に読むことができる。施設を訪れた記念の品になるよう、カバーではなく封書に包まれたような形にし、特別感を出している。

1300円。問い合わせはカーブドッチ、0256(77)2288。



原田マハさんが、カーブドッチの施設に滞在した体験を基に書いた「旅をあきらめるにはまだ早い友への手紙」